

第4回岐阜県自転車活用推進計画検討委員会 議事概要

1. 日時

令和元年11月27日（水）10時30分～12時00分

2. 議事

(1) パブリックコメントを踏まえた計画（案）について

3. 議事概要

委員の意見及び事務局の回答は以下のとおり。

- 計画(案)p7 で、自動車関連消費額を統計データから引用しているが、モビリティ・マネジメントについて議論する場面では、今回引用した金額よりも大きい額が提示されている。自家用車は維持費がかかるということをアピールするためには、引用する統計データを変えるとよい。
- 計画(案)p8 で、盗難に遭いやすいことが自転車のデメリットとするのは適切ではない。デメリットは、駐輪時に追加の配慮が必要だということである。
- 「自転車の活用による環境負荷の低減について具体的な施策と目標を設定してください」という意見について、環境負荷の低減についてはこの施策が対応しているなど、目標と施策の関係性を整理したほうが良いのではないかと。自転車の利用によって達成する社会の目標と岐阜県の施策がリンクしているということが伝わりやすいと思う。
- 参考資料1の7番の意見は、高価な自転車の盗難のリスクが高いことについて疑問を呈すものだが、それに対して自動車と自転車の全般的な盗難件数を示すのは回答がズレている。
→盗難に遭いやすいということが自転車のデメリットとして適切かどうかというところから再検討する。
- ：近年、イギリスやフランスで e-BIKE（電動自転車）が流行っている。今回の計画における「自転車」というのは、日本で一般的に市販されている普通の自転車のことを指していると思うが、高価でスピードがでる e-BIKE と普通の自転車では、考え方を分けないと危険だと思う。その差について計画に明記したほうがいいのではないかと。
→現在のところ岐阜県では e-BIKE に関する知見がないため、e-BIKE についての施策を位置付けることは難しいことから、例えば前段部分で、「e-BIKE 等については、本計画では関連する施策は設定していない」等といった前置きをする等で対応していきたい。
- スポーツ自転車と一般の自転車の利用シーンのすみわけについては、本計画でも整理してあるので、該当ページについて事務局から説明してもらいたい。
→計画(案)p82 で、それぞれのライフステージに応じた安全に対する啓発等の取組を整理している。
- 自転車は身体が露出しているところがあるため、自動車に比べて事故が起きた

ときの重大性が大きい。だからこそヘルメットなどを着用したり保険に加入したりの方策が必要である。デメリットとして記載して注意喚起を図るなり、その他のところで記載するなど対応して欲しい。

→計画(案)p72でヘルメット着用の広報啓発の施策を掲げているが、自転車を利用する際はより一層安全に配慮しなくてはならないといった表現を追加して注意喚起を図りたい。

○計画(案)p54の図表に「小紅の渡し」を追加されたが、追加したことが伝わりにくい。

→施策(8)関ヶ原の歴史資源を活かしたサイクルツーリズムの推進で紹介している5つのサイクリングコースに、「小紅の渡し」が入ったコースがあり、計画(案)p55の一番下の写真が「小紅の渡し」の様子である。そういったことがわかるように追記したい。

○都市では子どもを乗せた電動自転車がものすごい速度で歩道を走っていて怖い思いをすることがある。今後岐阜でも電動自転車が増えてきたときに、ルールが周知されていないと同じ状況が起こりうる。そういった意味で、電動自転車を放っておいていいのかという点が気になる。また、ラストワンマイルの移動を支える手段として電動自転車を活用する考えもある。今後の社会情勢や電動自転車の普及状況等に応じては、充分に一つの交通手段として機能していくと思う。そう考えると、計画(案)p86「計画のフォローアップと見直し」では新たな課題を見つけたらPDCAサイクルを回して実効性を高めていくと記載されているが、社会情勢の変化を踏まえて計画の見直しを行うという文言を加えるとよい。

○「自転車の活用による環境負荷の低減について具体的な施策と目標を設定してください」というパブリックコメント意見について、将来の目標として、自転車の活用における自然環境負荷の低減をどう位置づけるかは非常に難しいところだと思う。

→環境負荷の低減に関連する具体的な数値目標の設定は困難だが、趣旨にあった施策も掲載しているので、パブリックコメントへの対応のコメントを見直したい。

○計画(案)p86「計画のフォローアップと見直し」では、年度末ごとにフォローアップをし、5年後に計画を改訂するとされているが、場合によっては5年を待たずに計画を見直してもよいのではないか。フォローアップとして新たな課題などを関係者間で共有・確認するだけでなく、見直しも含めていただきたい。

○美濃にわか茶屋や池田温泉など県管理の施設には自転車駐輪用のロックはついているか。

→現状はついていない。

○海外では自転車を固定できるU字のフレームにロックをかけるという方法が一般的だが、日本ではロックをしようにもそれを繋ぐところがないので、ロックごと自転車を盗難されてしまうことがある。駐輪施設の整備が進むと使いやすくなる。

- 県計画策定後、市町村の推進計画はどのような流れで進んでいくのか。
 - 現在のところ策定予定がある市町村はない。県としては、市町村の道路担当者が集まる機会等で県計画の内容や策定手順について説明したり、個別相談に乗って技術的な助言をするなど対応していきたい。
- 市町村計画の策定を推進する場合、財源の話になると思うがどうか。
 - 自転車活用推進法制定を機に国で推進本部が立ち上がっており、関係省庁では自転車活用推進に係る補助金や交付金が検討されているので、新たな制度についての案内をしながら、市町村の計画策定を支援していきたい。
- この委員会は今後も継続するのか。
 - 今後も継続して検討会を設置したい。施策の進捗状況や市町村の策定状況などを報告し、引き続き委員の意見を伺っていきたい。
- 県の内部の委員会についてはどうか。
 - 引き続き、庁内各課においてフォローアップや見直しの検討を進める。
- パブリックコメントにもあるが、本検討委員会に女性の委員を加えてはどうか。
 - 多くの主婦が自転車を利用しており、女性の意見は重要だと思う。
- 学校関係者や若い方にも委員に入ってもらえるとよい。今後計画をチェックしていく組織を継続していくのであれば、もう少し幅広い層で委員を構成していけるとよい。
- 市町村が県計画のように網羅的な計画を策定するのはハードルが高い。健康や観光など、各市町村で自転車活用を推進していきたい分野に特化した計画を策定していただけるよう、県はバックアップをして欲しい。
 - 県は国の計画を勘案して計画を策定したが、そのかたちにこだわることはないということも含めて情報提供していく。
- 計画(案)p27 サイクルイベントの表について、「グランfond東濃」は試行イベントを実施した際の仮称であり、現在は「付知サイクリング大会」になっている。

以上